

唐名攷

― 読み方と室町時代古辞書の収載形態について ―

萩原義雄

はじめに

「唐名」の字をどう読むのか。そしてどのような意味に用いられるのか、このことからまず考えてみたい。現在の主だった辞典類を繙くと、次のようになる。

『大辞林』・第二版

からゝな【唐名】

(1) 中国での名称。

(2) 日本の官職を、中国風の呼び名に当てはめたもの。太政大臣を相国(シヨウコク)、大納言を丞相(アシヨウ)、中納言を黄門と称するなど。とうみょう。とうめい。

(3) あだ名。別名。「横車とはな、行かずというておのれがやうな女の―よ／浄瑠璃・十二段長生島台」

とうゝみょう とうゝ 【唐名】 「0」 ↓ からの (唐名) (2)

とうゝめい とうゝ 【唐名】 「0」 ↓ からの (唐名) (2)

『広辞苑』・第四版

から・な【唐名】

(1) 中国風の名。漢名。⇕大和名(やまとな)。

(2) 令制の官名を唐制で呼んだ名。太政大臣を相国(しようこく)、中納言を黄門と呼ぶ類。とうみょう。
(3) 珍しい名。別名。あだ名。狂、舎弟「先づ盗人の一の様なものでおりやる」

とう・みょう【唐名】 タウミヤウ

唐土・唐制での呼び名。令制の官名などについていう場合が多い。からな。とうめい。
とう・めい【唐名】 タウ・↓とうみょう

『岩波国語辞典』第四版

からな【唐名】の見出し語ナシ。

とうみょう【唐名】

唐土・唐制での名前。からな。▽多く、令制(りようせい)の官職名について言う。

とうめい【唐名】 ↓とうみょう(唐名)

『新潮国語辞典』第二版

からな【唐名】

① 中国での名称。中国風の名称。⇕大和名

② 日本の官職名を中国のそれに当てていったもの。太政大臣を相国という類。とうみょう。とうめい。〔狂言・

舎弟)

③ 珍しい名。一説に、別名。異名。(十二段一)

トウミョウ【唐名】 タウミヤウ 中国のでの名称。和名に対して、古く官名などに称した。からな。とうめい。

[職原抄上]

トウメイ【唐名】 タウー ↓トウミョウ

以上のことから、「唐名」の読み方は、「からな」「とうみょう」「とうめい」の三様であることが判明する。ここで、『岩波国語辞典』の収載方法に注目したい。なぜならば、和語読みの「からな」が見出し語を未収載(編者はこの読みを見出し語として認定していない。「とうみょう」の意義説明のなかでとりあげるにすぎない)にして、ただ字音読みの「とうみょう」と「とうめい」の読みが収載されているからである。また、『大辞林』の収載方法にあつては、逆に和語読みの「からな」を主要見出し語としていて、字音読みの「とうみょう」「とうめい」はただ空見出し語にしているといった読みづけの決定に問題があることをまず浮き彫りにしておく必要がある。このことは、現代社会にあつて、あえて言葉の名称を和名(やまとな)と唐名(からな)とに区別して表現する言葉使用の場面状況が中国及び日本古典籍を意識した作品資料などに限定されていくことで、この種の言葉そのものが減少したことをここに示唆しているのかもしれない。次に、いつからこの三様の読み方が定着したのであろうか。

大槻文彦編纂の『大言海』(昭和七年版)の「からな【唐名】」には、「[たうみゃうトハ云フマジキ由、云ヘリ]」という留め置く記述が見えるが、「タウミヤウ」「タウメイ」をも加えた三様の読みを見出し語に示している。これが上田萬年・松井簡治著の『大日本国語大辞典』では、ただ三様の読み方を採用していることからして、明治から大正

時代の初めぐらいまでには、字音で「とうみょう」「とうめい」とは、決して読まないことばの規範意識がどこかに働きつつもすでに崩れ始め、混同していたことを示唆している。それは、「唐獅子」「唐鳥」「唐猫」「唐船」「唐橋」などといったこの種の言葉がすべて和語読みされていたこととも関連しているに相違ない。

「唐」の付くことばの読み

ただこのなかで「唐船」については、室町時代の古辞書を見ると、字音読みの「唐船」と読まれていて、平安朝に見えた龍頭鷁首の「唐の船」があるのだが、「唐」の字を冠りする他の語と同じく「からふね」と和語読みされる船と「タウセン」と字音読みされる船とは同じ船であってもどこか異なるものであったようである。注意を要することとして、「から○○」と読まれるのと、「タウ○○」と読まれるものが必ずしも同じ一つの物事を表現しないことである。たとえば、糸も「唐糸」は、「からいと」と和語読みすれば絹糸で、「タウいと」と混種読みすれば、木綿糸といった具合にである。「唐櫛」も同じ。また、「唐薯(からいも) さつまいも」と「唐芋(タウのいも) あかいも」と「いも」の表記漢字によってその物を区別するものもある。そして、これら二様の読みを決定づける規範意識の根底には、日本に渡来した事物の時代差感覚を示すものであったのではないかと類推することになる。大概、平安時代までに渡来した事物には「から○○△和語▽」と読みならわし、それ已後再び中国を含む諸外国から渡来した事物には、「から○○△漢語▽」「タウ○○△漢語・和語・混種語▽」と読みならわすといった規範意識傾向をもう一度認識しておかねばなるまい。

ここで、「から系」と「たう系」の二種に「もろこし系」を加えて三種のことばの群があることを提示しておこう。

ただし、「唐紙師」や「唐紙障子」「唐木細工」「唐国鳥」「唐花草」「唐船奉行」「唐太玉」「唐表具」「唐松煎餅」
 「唐物棚」「唐物使」「唐物屋」「唐物奉行」「唐人笠」「唐人囃子」「唐人笛」「唐人鬘」「唐丸籠」「唐梵重標」などの
 二次的複合の語はここでは記載しない。

から系△和語読み▽

- から十和語……唐鏡平・唐鉛桃・唐綾平・唐綾威鎌・唐石敷鎌・唐糸室・唐薯江・唐歌平・唐梅
 江・唐瓜平・唐荏平・唐織室・唐垣奈・唐傘平・唐金桃・唐皮平・唐革江・唐紙平・
 唐冠桃・唐木桃・唐衣平・唐絹平・唐草平・唐櫛平・唐櫛笥平・唐菓子平・唐桑
 江・唐組平・唐鞍平・唐車平・唐琴平・唐子鬘江・唐様江・唐雀・唐墨奈・唐玉奈
 唐椿江・唐手江・唐戸室・唐鳥室・唐名鎌・唐梨奈・唐撫子平・唐錦平・唐猫平
 唐橋平・唐花桃・唐庇平・唐櫃平・唐船鎌・唐枕室・唐松桃・唐学江・唐棟鎌
 唐目鎌・唐物平・唐桃奈・唐輪奈・唐渡江
 からのかしら
 唐頭室・唐船鎌
 からのシャウグワツ
 唐正月室・唐本平
 からのエン
 唐縁桃・唐装束平・唐獅子室・唐納豆室・唐搏風・唐本室・唐風・唐文字・唐門鎌
 からのヤウ
 唐様鎌・唐鱸鎌・唐絵平

タウ系△字音読み▽

タウ十漢語……………唐音桃・唐樂奈・唐雁江・唐画江・唐冠桃・唐犬桃・唐国奈・唐牛莠江・唐胡麻桃・唐醬江・唐山江・唐三盆江・唐紙鎌・唐尺・唐人桃・唐船鎌・唐扇桃・唐茶江・唐茶宇江・唐通事江・唐天明・唐土室・唐突・唐風平・唐物平・唐偏僕江・唐墨・唐法師桃・唐本桃・唐饅頭江・唐名・唐木綿江・唐藥江

タウ十混種語……………唐縮緬江

タウ十和語……………唐網桃・唐糸江船・唐白・唐团扇桃・唐柿江・唐瘡桃・唐辛桃・唐鴉江・唐黍桃・唐桐江・唐榔桃・唐鋏桃・唐水母江・唐胡桃江・唐獨樂桃・唐錫・唐苜江・唐机江・唐燕江・唐菜江・唐茄江・唐鋏江・唐黄櫨江・唐檜・唐紅・唐豆桃・唐丸桃・唐箕江・唐蓑江・唐弓江・唐蘆・唐綿江

タウ十の十和語……………唐芋室・唐土桃

もろこし系^和語読み

もろこし十和語……………唐黍・唐土人・唐土船

*奈は奈良時代。平は平安時代。鎌は鎌倉時代。室は室町時代。桃は桃山時代。江は江戸時代。明は明治時代。の用例の語であることを示す。

「から〇〇^和語」のなかで、①「唐梅」②「唐織」③「唐金」④「唐革」⑤「唐冠」⑥「唐木」⑦「唐桑」

⑧「唐子鬘」⑨「唐様」⑩「唐椿」⑪「唐手」⑫「唐戸」⑬「唐鳥」⑭「唐花」⑮「唐船」⑯「唐松」⑰「唐字」

⑱「唐棟」⑲「唐目」⑳「唐渡」などの語が初出の用例を見るうえで、

鎌倉時代…⑮⑬⑱⑱

鎌倉時代…⑮⑬⑱⑱

鎌倉時代…⑮⑬⑱⑱

鎌倉時代…⑮⑬⑱⑱

鎌倉時代…⑮⑬⑱⑱

鎌倉時代…⑮⑬⑱⑱

室町時代：②⑫⑬

江戸時代：中国①③⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑭⑰⑲⑳。

舶来④⑥⑱

といった時代を降り、「タウ」字音読みと同じ時代に渡来した語である。ここでも「唐革」のように、「唐皮」と表記法によって区別をつける語も含まれている。これをなぜ、「タウヒ」と読まないのか又は「タウがは」と読まないのか。字音読みの「タウヒ」では同音異語の渦中に陥るし、混種読みの「タウがは」はあってもよさそうなのであるが、この語に類系する⑥⑱の語に共通する何らかの規範意識がここに働いているのか今は定めがたい。これとは逆に「タウ」字音読みのなかでは、「唐樂」と「唐国」の語が、『続日本記』（平安時代成立、奈良時代内容）の天平神護二年十月癸卯二十一日の条に「以三舍利之會、奏唐樂也」△新大系4一四一⑫▽、淳仁天皇・天平宝字八年七月甲寅十九日「対日、唐国擾覽、海賊寔繁」△新大系4一七⑭▽、光仁天皇・宝龜六年十月壬戌二日「我朝学生、播名唐国者、唯大臣及朝衡二人而已」△新大系四五九⑯▽とあって、早い時代に記された文献史料は、字音読みか和語読みか判別しがたいのが実情である。一つは雅樂を示す語で「タウガク」と読む。もう一つは「タウコク」と読むか「もろこし」と読むか揺れる。次に「から〇〇△漢語▽」の語を見ると、「唐装束」の用例として『大鏡』巻五・藤氏物語「上東門太宮は、二重織物をりかさねられて侍し。皇太后宮は、辨字そうじてから装束。」△大系二四四⑯▽や『西三条装束抄』に見える「唐綾、是れは唐装束にて、文色など、強ち定事なし、下襲、表袴に、唐綾、唐の顕文紗などを著するなり、凡そ唐装束は、一日晴れと称して、尋常に替る侍るなり」と「唐絵」の用例『枕草子』一六三段・むかしおぼえて不用なるもの「からゑの屏風の黒み、おもてそこなはれたる」△大系二二二③▽の二語以外は、鎌倉時代以降か

らの用例語となる。

さて、本目的の「唐名」そのものに戻ってみると、近代のある時期に音訓読みの規範意識が薄れはじめた時、ここで取上げた「唐名」の読み方のような問題が現実化してきたのではないかと考える立場にある。「唐名」の用例で言え、『職原鈔』の「爰稱徳ノ御世暫改^テ大納言ノ號^ヲ爲^ニ御史大夫一。是故大納言ノ唐名^ヲ爲^ニ御史大夫ト^ニ不^ルレ叶^ニ舊式^ニ者也」△群書類従・第五輯六〇七頁▽、「勘解由使。云^フニ勾勘^ト。是強^チ非^ニ唐名^ニ。取^ルレ義^ヲ欺^ル」△同上・六二四頁▽や『官職難儀』の「儀同三司は一位唐名にてある間。唯大納言にて一位したるも同事云々。是は事の外相違なる事也。従一位の唐名は開府儀同三司と申也」△群書類従・第五輯六八四頁▽といった記載内容をめぐっての読み方を、伝統をもって読み慣わし、受け継がれてきたであろうそのものが薄れ、判然としなくなるうちに生じてきたのがこの「唐名」音訓両様の読み方であったと思う。これを近代辞書の魁である大槻文彦編『大言海』は、上記に示した留め書きによってその旨を知らしめておこうとしたのである。

意味については、和語読みの「からな」には、主に三つの意味があつて、そのうちの(1)と(2)は、中国風の名称と日本の官職名を中国風に記述して読むといった事柄で辞書規範の問題はなさそうである。現在では、この方式に従って社会生活を送ることは、まず皆無に等しい。言い換えれば、個人的趣味の世界に等しいのである。たとえば、某大学の学長から名刺を戴いた。これを拝見するとその肩書きに「〇〇大学学長」とせず、あえて唐名を用いて「〇〇大学祭酒」と記載しているといった風流なお方ぐらいであろうか。とはいえ、すべての大学の学長職にある方がこのようにはしてないし、またしようとはしないであろう。(3)の珍しい名やあだ名、別名、異名となるとこれは、この言葉の使用に幅の広がりが生じてきたことを示唆している。が、これも現代語の文章表現のなかでは見

かけない言葉となっていることも事実ではなからうか。この言葉の用例を見ても室町から江戸時代における表現であったことが知れよう。では、本当にいつ頃から云われなくなったのであろうか、このことは、まだ言及されていないように思われる。むしろ、現代日本語の表現としては、あだ名や別名・異名といった言葉が自然と代替えされて表現されているのではないかということ或少しく考察してみる必要がある。その手続きとして(1)(2)(3)の意味を含めて現代の国語辞書に収載されつづけられていながら、使用範囲が狭められつつある「唐名」なる言葉の実態を近代語の渦巻くなかで「唐名」そのものが使用されはじめ、平安時代の王朝漢詩文に広く用いられた「唐名」が最も完熟期を迎えた室町時代にあつて古辞書でどう認知されているのか、ここ室町時代の古辞書に基点を据えてその言葉の流れについてその深層を明らかにしていくことにする。

鎌倉時代の古辞書

(1) 『伊呂波字類抄』における「唐」の語

「唐紙・唐匣」カラカミ カラクシケ 俗用之・唐皮・韓櫃、辛櫃カラカハ カラヒツ

(2) 『世俗字類抄』(二巻本)における「唐」の語

「唐菓子」カラクタモノ 飲食上57ウ、「唐醬」タウシヤウ 飲食上72ウ、「唐指 棄捨也」カラサシ 豊字上76ウ

室町時代の古辞書における「唐」の語と「唐名」

(1) 『下学集』における「唐」の語

『下学集』は、京師九陌名横小路の部門に「唐橋」と器財門に「唐櫃・唐紙」の三語と器財門「傘」の注文に「傘」持手謂之之傘也 墨傘唐傘是也 以之字形可シト知レ之云々」と「唐傘」が一語が収載されている。また、「からすき【犁】」、「からもも【杏】」といった「唐」の字を表記しない語も二語見受けられる。

そして、天地門「震旦」には「震旦 支那唐土也 又作ニ仕那ニ」の「唐土」や「白樂天 白居易ト唐朝ノ詩人也」、「呉道子 唐朝ノ畫工也」といった「唐朝」の語や「黒牡丹 牛ノ異名也 唐人劉訓京師ニ春遊スルニ觀テニ牡丹ヲ一訓後ニ迎テ客ヲ賞スレ花ヲ 乃繋テ水牛ヲ一在テ前ニ指シテ曰ク此劉訓カ之黒牡丹也」、「悪客 唐人元次山呼テニ不レ飲レ酒ヲ者ヲ一謂フ之ヲ悪客ト也」、「犢鼻褌 男根ノ衣也 男根ハ如シニ犢鼻。故ニ云フニ犢鼻褌ト也。晋ノ元成家貧シテ而七夕ニ晒シテニ犢鼻褌ヲ一以テ獻スレ星。又タ唐人李義山以テ三花上ニ晒シテニ犢鼻褌ヲ一爲ニ殺風景ノ第一ト也」、「石南花 唐人ノ詩ニ云ク不スレ知ラニ青嶂 收コトヲニ来雨ヲ。清曉石南花乱レ流ル」という「唐人」の語や「烏亂 又作ニ胡乱ニ烏乱ニ字共ニ唐音也 烏乱ハ者竊ニ取ルニ義ヲ於平沙ノ落雁ニ歟。落雁ハ者乱雜ノ之義也」、「茶毘 二字共ニ唐音。葬送ノ之義」、「下火 二字共ニ唐音也。禪家ノ葬礼ノ之法事也 火ノ字或ハ作ニ炬ノ字ニ」という「唐音」の語や「氣條 見ヘタリニ唐詩ニ也」という「唐詩」の語があつて、「唐名」の語も同じく注文語として用いられているが、見出し語には見えないのである。読み方については、人倫門「竹園」の注文に「親王ノ唐名也」と傍訓が見え、和語読みであることが知れる。

春良本『下学集』には、「唐橋」は「八条」の注文収載とする。そして人倫門「唐紙師」、家屋門「唐居敷」、飲食門「唐珎香」、そして器財門に「唐筵」を増語し「唐櫃・唐紙」、さらに光彩門に「唐茶・唐紅」を増語収載する。

(2) 『運歩色葉集』における「唐」の語

『運歩色葉集』における「唐名」の見出し語収載状況としては、和語読みの「か」の部門には、「唐櫃・唐紙・唐傘・

唐門・唐名・唐瓜・唐錦・唐綾・唐羅・唐櫓・唐戸・唐畫・唐墨・唐筵・唐席・唐衣、「唐碓」、「唐居敷」唐納豆の十七語が収載され、また、「た」の部門には、「唐紙・唐瘡・唐音・唐櫛・唐筵・唐席・唐筆・唐船・唐腕・唐物・唐扇・唐針・唐冠・唐人」「唐土」の十五語が収載されていて、「唐紙」と「唐筵・唐席」の三種二語が字音読みと和語読みとに重複しているのに留まる。ここで、「唐櫓・唐畫」、「唐櫛・唐腕・唐冠」は他の古辞書に未収載の語である。そして、「唐名」については字音読み「た」の部には未収載で、『運歩色葉集』にあつてはこの語の読み方の規範意識は、あくまで和語読みの認識に立っていることをここに確認できるばかりでなく、他の古辞書には見出し語として「唐名」を収載していないのに『運歩色葉集』だけが「唐名」の語を見出し語として収載している点に注意されたい。

(3) 『節用集』における「唐」の語

『節用集』の収載状況についても易林本の「か」の部には、乾坤「唐居敷_{門也}」、人倫「唐紙師」、食服「唐納豆・唐帶」、器財「唐匣・唐笠・唐櫃」の七語、「た」の部には、人倫「唐人」、食服「唐紗」、言語「唐音・一船・一物」の五語と『運歩色葉集』と比べると「唐」の字を冠りするの語の収載はやや少なく、何よりも肝心の「唐名」の語が易林本には未収載であるため、『運歩色葉集』のような明確な認識判断は控えねばなるまい。ここでは、「唐帶・唐匣」、「唐紗」の語は他の古辞書に未収載の語である。

(4) 『落葉集』における「唐」の語

『落葉集』も色葉字集に「唐門・一居敷・一紙・一紅・一織・一綾・一錦」へ6ウVの七語、本篇に「唐・一土・一筆・一人・一物・一犬・一船」へ19オVの七語とこれも収載語は少なく、やはり、「唐名」の語は和語

読み・字音読みのどちらにも収載されていない。ここでは、「唐門」の読みが和語読みされていることと、「唐本」が他の古辞書に未収載の語である。

(5) ー①『日葡辞書』におけるから【唐】[Cara]の語

見出し語	漢字表記	ローマ字表記	頁数位置
から	唐	Cara.	99r
からあや	唐綾	Caraaya.	99r
からいしき	唐居敷	Caraixiqi.	100r
からうり	唐瓜・甜風	Carauri.	101r
からおり	唐織	Carauri.	101r
からおりもの	唐織物	++ Cara vorimono.	101r
からかさ	唐笠・傘	Caracasa.	99r
からかね	唐金	Caracane.	99r
からかみ	唐紙	Caracami.	99r
からかみし	唐紙師	+ Caracamixi.	99r
からかみしょうじ	唐紙障子	Caracamixōji.	99r

シナ。

シナの織物。

その上で門扉を閉じ、門柱を据える大きな木材。

ある種の瓜。

シナの織物の織り方。

大きな日傘。

鑄物に用いられる、銅と錫との或る合金

浮織模様の紙。

浮織模様の或る紙を漉く職人。

この紙(唐紙)を張った戸や格子戸。

からかわ	唐皮・唐革	Caracaua.	1011	シナの毛皮。
からまき	唐菊	+ Caragicu.	1011	ある花。
からきぬ	唐絹	+ Caraginu.	1011	麻布などのようなシナの薄い反物。
からくさ	唐草	Caracusa.	1001	描いたり浮彫りにしたりしてほどこされた細工、すなわち、飾り。
からくに	唐国	+ Carucuni.	1001	シナの国。
からくれない	唐紅	Caracurenai.	1001	シナの濃い紅色の絹撚糸。
からくれない	唐紅	+ Caracurenai.	1001	南京の絹撚糸、または、その糸の淡紅色。
からこ	唐子	Caraco.	1001	シナの子供。
からことば	唐言葉	Caracotoba.	1001	シナのそれのような、わからない言葉。
からこのえ	唐子の絵	Caraconoye.	1001	頭の真ん中で髪を結ったシナの子供を描いてある絵。
からころも	唐衣	+ Caracoromo.	1001	シナの衣服。
からしょうぞく	唐装束	Caraxòzocu.	101r	シナの衣装、すなわち、服装。
からすみ	唐墨	Carasumi.	1011	シナの墨。
からたけ	唐竹	Caratage.	101r	シナの竹。
からと	唐戸	+ Carato.	1011	彫刻されたいろいろの細工のある開き戸。
からなでしこ	唐撫子	+ Caranadexico.	1011	花の咲く或る草。また、花そのもの。
からにしき	唐錦	Caranixiqi.	1011	シナのある種の織物。

からねこ	唐猫	Caraneco.	1011
からひし	唐菱	Carafixi.	1001
からひつ	唐櫃	Carafitcu.	1001
からひと	唐人	+ Carafito.	1001
からむしろ	唐筵	Caramuxiro.	100r
からもの	唐物	Caramono.	100r
からゆいそなし	唐ゆひそなし	Carayuiso naxi.	1011
からよもぎ	唐蓬	Carayomogui.	1011
からろ	唐櫓	+ Caruro.	1011
からわに	唐輪に	Carauani.	1011
かろうと	唐櫃	Carōto.	103r

ある種族の猫。

やや長い四角形をした、或る図形。

櫃、すなわち、箱。

シナの人。

100rシナの筵。

100rシナの物。

純良な、すなわち、節糸のない絹布。

ある草。

シナの櫓。すなわち、シナの大型の櫓。

副詞。髪の毛、或る結び方。

(4) 一② たう 【唐】『日葡辞書』に於ける [Tou] の語一覽

見出し語	漢字表記	ローマ字表記	頁数位置
とうあみ	唐網	+ Tōami.	6511
とういん	唐音	Tōin.	6581

投網。

シナ固有の声、すなわち語調。

とううちわ	唐団扇	Tōvchua.	6711	シナの円い扇。
とうがさ	唐瘡	Tōgasa.	6711	よこね。
とうがさ	唐笠	Tōgasa.	656r	シナの笠。
とうぐら	唐ぐら	Tōgura. (ㄗㄗ)	6571	鉄の中央にさし込んだ柄をもつ、シナの鍬。
とうぐわ	唐鍬	+ Tōguua.	6571	
とうけん	唐犬	Tōqen.	6621	シナの犬。
とうごま	唐独楽	+ Tōgoma.	6571	子供が遊ぶ、一種の独楽、すなわち、どんぐりのこま。
とうごま	唐胡麻	+ Tōgoma.	6571	とうごま。
とうごまのみま	唐胡麻の実ま	+ Tōgomanomi.1,	6571	前条のとうごまの、種子、すなわち、実。
たは、とうごま	たは、唐胡麻	Tōgoma.		
とうし	唐紙	Tōxi.	672r	シナの紙。
とうじん	唐人	Tōjin.	658r	シナの人。
とうせん	唐船	Tōxen.	6721	シナの船。
とうそう	唐瘡	Tōsō.	67011	よこね。
とうど	唐土	Tōdo.	6551	シナ。
とうなんばん	唐南蛮	Tō nanban.	660r	シナとインド。
とうのつち	唐の土	Tōnotsuchi.	660r	酸化鉛。

とうばり	唐針	Tōbari.	6511	シナの針。
とうひツ	唐筆	Tōfit.	6561	シナの絵画とか書とか。
とうぶね	唐船	+Tōbune.	652r	シナの船。卑語。「唐船」という方がまさる。
とうぼし	唐法師	Tōboxi.	652r	赤い米。「上」では「大唐米」といわれる。
とうまめ	唐豆	Tōmarne.	6581	そら豆。
とうまる	唐丸	Tōmaru.	6591	日本のそれよりも大きくて強い、シナの牝鶏とか雄鶏とか。
とうもツ	唐物	Tōmot.	6601	シナの物。
とうもツ	唐物	+Tōmot.	6601	シナから来る薬。
まいげ	唐毛	Maigue.	3801	
もろこし	唐土	Morocoxi.	423r	
もろこしぶね	唐土船	+Morocoxibune.	423r	

*この(4)①②の表は、愛知学院山田健三氏作成の『日葡辞書』テキストデータを使用して、作成したものである。

この表を見ても日本の古辞書よりはるかに多い語を収載しているのであるが、「唐名」の見出し語は、やはり未収載である。

『下学集』をはじめとする当代の古辞書において、「獅子」といった動物を、収載していてもまだ、「唐」の字を冠りしていない。この冠りしない規範意識がしだいに変貌を遂げて行くことになるのだが、そこには別の同類品種の生物が別に存在する場合にこれと区別する意味から、さらに冠りされていくものでなければなるまい。

『時代別国語大辞典・室町時代編』における「からしし」の引用である、『高野山文書』応永十八、九、廿、天野社造営料足結解状の「唐鹿」や『多聞院日記』永禄十、二、六に見える「唐師子」の時代史料は、印度の「獅子」とは異なる動物としてとらえた魁といえよう。

こうして見ると室町時代にあつては、「唐物」という語を源とする「唐」の字を冠りしたいくつかの言葉の群れは、平安朝時代を境に途絶えていた大陸中国（宋の国）から「再び渡来した新種の物産」すなわち「新しい貴重な物」という停滞した和風の物産でない中国風の実にハイカラなものとしての総称性の言葉として一層活発に認定されつつあつたのかもしれない。

古辞書の語注文における「唐名」

次に、室町時代の『下学集』や『運歩色葉集』そして『節用集』などの古辞書における見出し語の注文に見える「唐名」の語について見てみることにする。

「唐名」については、先行研究として、山本真吾氏の「平家物語に於ける官職唐名の用法について」（小林芳規博士退官記念国語学論集・汲古書院刊）や菅野氏の「平安朝における官職唐名の文学的側面」（語文研究六・七、平成元・六）などがあるが、辞書史のうえでこの語の行く末については未だ検討がなされていない。古辞書中に於ける「唐名」は、当時代にあつて多くは官位職名に付随する書き込みである。『撮壤集』においても官位部の官名類や位階部に「附 唐名」として記されている。

元和本・春良本『下学集』『運歩色葉集』の「唐名」

部門	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位
当該語	大納言	音博士	縫殿頭	殿上人	近衛大將	羽林大將軍	雲客	三位以上ヲ云フ月卿。公卿也。四位以下ヲ云フ雲客ト。殿上人ナリ也。又云夕郎也	42②	540	春良本注文	唐名ハ亞相。以下ノ之唐名皆注レ之ニ。
対象語	亞相	音續儒	掖庭監	雲客	羽林大將軍	羽林大將軍	三位以上云フ月卿。公卿也。四位以下曰ニ。殿上人也。又曰夕郎也	45①	609	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
注		音續儒	掖庭令	掖庭令	掖庭令	掖庭令	音顯助	33⑥	33	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
文		音續儒	掖庭令	掖庭令	掖庭令	掖庭令	音顯助	33③	33	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
項数	42②	43③	42⑥	45①	44⑥	42②	43③	30⑦	31⑦	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
番号	540	567	555	609	603	540	567	30⑦	31⑦	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
春良項	30⑦	31⑦	31③	33⑥	33③	30⑦	31⑦	30⑦	31⑦	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
運歩色葉集	○	○	▽	○	●	○	○	○	○	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相
易林	○	○	▽	○	●	○	○	○	○	唐名。亞相。以下。唐名皆注レ之ヲ也。	唐名	亞相

官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位
衛門督 エモンノカミ	彈正尹 ダンジャウイン	雅樂頭 ウタノカミ	少納言	大舍人頭 ヲウトネリノカミ	文章博士 ブンシャウノ	翰林学士 カンリンガクシ
金吾將軍	御史大夫	協律郎	給事中	宮圍令	翰林學士 カンリンガクシ	翰林學士 カンリンガクシ
	御史大夫 シフ	協律郎 ケウリツ	給事中 ケウシチウ	宮圍令 ケウイレイ		
	44 ③	43 ③	42 ③	42 ⑤	43 ②	
	591	569	543	552	564	
監門大將軍 ケンモンタイ	少弼。霜臺。 キヨシタイフ	大樂令 カクレイ	給事中。大一小	宮圍令 ケウイレイ	翰林學士 カンリンガクシ	翰林學士 カンリンガクシ
金吾將軍。 ケンモンタイ	32 ⑥	32 ①		31 ②	31 ⑥	
衛門 唐名金吾		雅樂 唐名。大樂 協律郎 唐名 (*) 協律郎 雅樂也。	中 少納言 唐名給事	圍令 大舍人頭 唐名宮	士又文臺 翰林學士 文章孝 士之唐名	文章博士 翰林孝
●		○ ○	○ ●			○

唐名攷(萩原)

部門	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位
当該語	少貳 <small>ニ</small>	木工頭 <small>ムクノ</small>	禁京大夫 <small>キヤウ</small>	刑部卿 <small>キヤウフ</small>	上達部 <small>カンタチベ</small>	公卿 <small>クキヤウ</small>	漏刻博士 <small>ロウコクノ</small>
対象語	軍監	工部尚書	京兆	刑部尚書	月卿	月卿雲客 <small>ケツケイウンカク</small>	挈壺正
注		工部尚書 <small>クホウ</small>	京兆ノ伊左馮翊右扶風 <small>ケイテウノイサフコクフフフ</small>	刑部尚書 <small>ケイホウ</small>	上卿又月卿	三位以上ヲ云フ月卿ト。公卿也。四位以下ヲ云フ雲客ト。殿上人ナリ也。又タ云夕郎也	挈壺正 <small>ケツコノカミ</small>
文							
項数	44①	44①	44③	43⑥	45②	45①	43①
番号	583	583	592	577	611	609	560
春良本注文	軍監。都督少卿 <small>クンケン。トクトクセウケイ</small>	工部大匠 <small>クホウタイシヤウ</small>	進亮、東ノ左右ト。京兆、西 <small>シンスケケイテウ</small>	省、刑部。卿、尚書 <small>シヤウケイホウ</small>	上卿。月卿 <small>シヤウケイケツ</small>	三位以上云ニ。四位以下日ニ。殿上人也。又日夕拝郎也	挈壺正司衣 <small>ケツコ</small>
春良項	33②	32⑤	32⑦	32③	33⑦	33⑥	31⑤
運歩色葉集		工部 木工頭之唐名	京兆 禁京之唐名	刑部 刑部之唐名		雲客 四位已上 殿上人事也	唐名 漏刻博士 唐名挈壺 <small>ケツコ</small>
易林			○	●	○	○	○

唐名攷(萩原)

官位 大學頭 <small>ガクノ</small>	官位 玄番頭 <small>ゲンパンノカミ</small>	大膳	官位 大膳大夫 <small>ゼン</small>	官位 中納言	官位 衛門督 <small>エモンノカミ</small>
國史祭酒	鴻臚卿		光祿卿	黃門侍郎	監門大將軍
國史祭酒 <small>シ</small> <small>サイシユ</small>	鴻臚卿 <small>コウロ</small>		光祿卿 <small>ロク</small>	納言・黃門侍郎	
43 ②	43 ④		43 ⑦	42 ②	
563	570		582	541	
祭酒 <small>サイシユ</small> 祭主 <small>サイシユ</small> 國子 <small>コクシ</small>	鴻臚卿 <small>コウロ</small> ケイ		光祿 <small>クワウロク</small>	黃門侍郎 <small>クワウモンシラウ</small>	監門大將軍 <small>ケンモンタイ</small> 金吾將軍 <small>キンコシヤウケン</small>
31 ⑥	32 ①		32 ⑤	30 ⑦	33 ④
	玄番頭 <small>ゲンパンノカミ</small> 唐名鴻臚卿又主客 <small>コウロケイシユカク</small>	之唐名 ・光祿 <small>ロク</small> 大膳大夫	大膳 <small>ゼン</small> 唐名光祿 膳部 ・大膳大夫 <small>ダイゼンノダイフ</small> 唐名光祿。膳部	黃門 <small>クワウモン</small> 唐名 中納言 <small>チュナゴン</small> 唐名黃門 <small>クワウ</small>	大納言之
○	○		○	●	

部門	当該語	対象語	注	文	項数	番号	春良本注文	春良項	運歩色葉集	易林												
官位	天文博士 天文博士	國守	諸國ノ守	官位	市正 イチノカミ	算博士	大學頭 ガクノ	民部卿 ミンブ	部門													
官位	司天	刺史	刺史	官位	市令	算ノ学士	祭酒 祭主	戸部 戸部尚書	部門													
官位	司天	刺史	刺史	官位	市令	算ノ学士	國史祭酒 シノサイシユ	戸部尚書 コホウ	部門													
項数	43 ①	44 ⑤	44 ④	43 ②	43 ④	番号	559	572	項数													
番号	559	600	593	563	572	春良本注文	靈郎臺。司天	刺史	市令	算ノ学士	祭酒 祭主。國子。	卿、職、方郎	省、戸部。	春良項	31 ⑤	33 ②	32 ⑦	32 ①	31 ⑥	32 ②	運歩色葉集	易林
唐名	司天 天文博士之	司天。靈臺	天文博士。唐名。	刺史 國守之唐名	國守 唐名大守。	市令 唐名市令	市令正 唐名市令	市令正之唐名	祭酒 大孝之唐名	大學士 唐名司業。	祭酒	戸部 民部之唐名	易林	○	○	○	○	○	○	○	○	

唐名攷(萩原)

官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	
軍監 グンケン	大炊 ヲホイ	掃部頭 カモンノ	式部卿 シキブ	中務卿 ナカツカサノキヤウ	侍從 ジジユウ	曆博士 コヨミノハカセ		宮内卿 クナイ	
將軍亞相	主爨 シュサン	守宮令 シュキウ	侍郎	侍郎	拾遺 シツイ	司曆正 シキノカミ	司農	司農尚書	
將軍亞相 アシヤウ	大倉令又主爨 サウレイ シュサン	守宮令 シュキウ			拾遺 シツイ	司曆正 シキノカミ		司農。尚書 シノウ	
45 ①	44 ①	44 ②		42 ④	42 ⑤	42 ⑦		43 ⑦	
608	584	587		546	548	558		581	
將軍亞相 シヤウケンアシヤウ	道官令 ダウクワン	守宮令 シュクワン	卿、侍郎 キヤウ	省、吏部 シヤウ リホウ	卿、侍郎 キヤウ シラウ	省、中書 シヤウ チウシヨ	拾遺。大一小 シツイ	司曆正侍 シレイシヤウ	省。司農卿。少府 シヤウ シノウキヤウ ショウフ
33 ⑤	32 ⑤	32 ⑤	31 ⑥	31 ②	31 ②	31 ④			
	名 主爨 大炊助之唐 ヲホイノスケ 大炊助 唐名大倉 レイ シュサン 令。主爨。道官 ダウクワン	名 守宮 掃部頭之唐 シュクワン 名			侍從 唐名拾遺 ジジユウ		内之唐名 尚書・司農 宮	宮内卿 唐名司農	
○	▽				○	○		○	

官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	部門
彈正尹	主殿頭 トシモノ	宮内卿 クナイキヤウ	辯 ベン ヲ、トモヒト	修理大夫 シユリノ	太政大臣 サイシヤウ	參議 サンギ	主水正 モンドノカミ	上達部 カクダチベ	当該語
少弼	尚舍奉御	尚書	尚書	匠作		相公	上林藏氷 リンサウヘウ	上卿	対象語
	尚舍奉御 ホウキョ	司農。尚書 シノク	尚書ニ辯ヲ作辨ニ誤也	匠作 シヤウ	即宰相也 チサイ	諫議大夫。八座。相公。 カン シヤウ		上卿又月卿	注
	44 ①	43 ⑦	42 ④	44 ④		42 ③		45 ②	項数
	585	581	545	594		542		611	番号
御史大夫 キヨシ 少弼。霜臺。 セウヒツ サウタイ	尚舍奉御 シヤウシヤホウキョ		尚書蘭臺 ランタイ	進亮。匠作。大尹 シンスケ シヤウサク タイイン	此官八人在	參議大夫。相公。 サンギ シヤウコウ	上林藏氷。膳部 シヤウリンサウスイ センブ	上卿。月卿 シヤウケイ ケツ	春良本注文
			31 ①	32 ⑦		30 ⑦	32 ⑥	33 ⑦	春良項
名 少弼 彈正尹之唐		司農 宮内之唐名	尚書	匠作 修理大夫 唐名 修理大夫 唐名匠 作		宰相 唐名相公。 參議。諫議 シヤウコウ 同		上卿	運歩色葉集
		○	○	○			○		易林

官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位
殿上人 テシ	將監 シヤウケン	織部正 ヲシヘノカミ	織部正 ヲシヘノカミ	監物 ケンモツ	内匠頭 タクシノカミ	内藏頭 クシノカミ
夕郎 夕拝郎	親衛校尉	織染令	織染令	城門郎	少府監	少府監
三位以上ヲ云フ月卿ト。 公卿也。四位以下ヲ云フ 雲客ト。殿上人ナリ也。 又夕郎也	親衛校尉 シシエイカウイ	織染令 シヨクセン	織染令 シヨクセン	城門郎	少府監	少府監
45 ①	44 ⑥	43 ⑦	43 ⑦	42 ⑤	43 ①	42 ⑥
609	602	580	580	550	561	554
拜郎也 四位以下曰「夕郎」。 殿上人也。又曰夕 郎也	祿事、參軍右。 親衛、校尉右 シシエ カウキ	織染令 シヨクセンレイ	織染令 シヨクセンレイ	城門郎 シヤウモンラウ	中尚令。少府監 チウシヤウレイ	
33 ⑥	33 ③	32 ⑤	32 ⑤	31 ②	31 ⑤	
雲客 四位已上殿 上人事也	將監 唐名親衛	唐名 織部正 唐名織 染令 シシエノカミ シヨク センレイ	唐名 織部正 唐名織 染令 シシエノカミ シヨク センレイ	名 城門郎 監物之唐 定 ケンモツ 唐名城門寮 レウ	名 少府 内藏殿之唐	名 少府 内藏殿之唐
○	○	▽	▽	○	○	○

部門	当該語	対象語	注	文	項数	番号	春良本注文	春良項	運歩色葉集	易林
官位	春宮大夫 トウグウ	詹事端尹	詹事端尹 センシタンイン		44 ④	596	詹事。端尹	33 ①	東宮 クウ 唐名宮司。 センシ 詹事。大傳 タイプ	
官位	書博士	千書儒					千書儒 センシヨシユ	32 ①		
官位	主水正 モンドノカミ	膳部郎中	膳部郎中 センホウ		44 ②	590	上林蔵水。膳部 シヤウリンサウスイ。センブ	32 ⑥	主水正 モンドノカミ 唐名膳部	●
官位	彈正尹 ダンジヤウ	霜臺					少弼。霜臺。 セウヒツ。サウタイ キヨシ。タイプ	32 ⑥	霜臺 サウタイ 彈正之唐名	◎
官位	正親正 マキミノカミ	宗正卿	宗正卿 ソウセイ		44 ②	588	宗正令 ソウシヤウレイ	32 ⑥		
官位	主税頭 チカラノカミ	倉部郎中	倉部郎中也 サウホウ		43 ⑤	574	倉部郎中 サウホウラウチウ	32 ③		
官位	内藏頭 クラノカミ	倉部侍郎					倉部侍郎 サウホウ	31 ③		●
官位	典藥頭 テンヤクノ	大醫令	大醫令 ダイイ		44 ①	586	大醫令 ダイイレイ	32 ⑤		
官位	雅樂頭 ウタノカミ	大樂令					大樂令 カクレイ	32 ①	雅樂 唐名大樂。 協律郎 大樂 ガク 雅樂之唐名	
官位	大外記 ダイゲキ	大外史	大外史 ダイシ		42 ③	544	外史 ゲシ		外記 ダイゲキ 大炊助 フホイノスケ 唐名大倉 令。主爨。 シユサン 道官 ダウクワン	○
官位	大炊 フホイ	大倉令	大倉令又主爨 サウレイシユサン		44 ①	584			大倉令 サウレイ 大炊唐名	

唐名攷(萩原)

官位	官位	官位	神祇	官位	官位	官位
大藏卿 ヲ、クラ	中宮 クウ	内記 ナイキ	神祇伯 ヅンギハク	鎮守伯 チンジュハク	明經博士 ミヤウキヤウノ	東宮學士 トウグウガクシ
大府卿	大夫	大内史		大常卿	大儒	太子賓客
大府卿	大夫	大内史	唐名ハ大常卿。 又大ト令 ホクレイ	大儒	太子ノ之賓客 ヒンカク	大史令
43 ⑥	42 ⑤	42 ⑤	35 ④	43 ②	44 ④	42 ⑦
579	551	549	382	565	595	556
省、大府、卿、卿	大夫	内史	唐名者・大常卿。 又曰大ト令也 ホクレイ	直講。大儒	太子賓客	大史令。大ト令
32 ④	31 ②			31 ⑥	33 ①	31 ④
大府 大藏之唐名				太子賓客 同上	東宮學士 唐名太子賓客	大史令 陰陽頭之唐名 陰陽頭 唐名祠部。大史令。大ト博士
◎	△	▽	○	○		

部門	官位	神祇	官位	官位	人倫
当該語	陰陽博士 (インヤウノハカセ)	鎮守伯 (チンジュホク)	檢非違使別當 大判事 當 大判事	主計頭 大判事	親王 親王
対象語	大卜博士	大卜令	大理	度支郎	竹園
注	大卜博士也	唐名ハ大常卿。 又大卜令。		度支郎	竹園 親王ノ唐名也
文					
項数	42 ⑦	35 ④		43 ⑤	37 ⑤
番号	557	382		573	418
春良本注文	大卜博士	唐名者・大常卿。 又曰大卜令也	別當大理。 左佐廷尉	度支。金部	
春良項	31 ④		33 ⑥	32 ③	
運歩色葉集	大卜博士 陰陽頭 之唐名 陰陽頭 唐名祠 部。大史令。大卜 博士		大理 大判事唐名 大判事 唐名大理。 司直		竹園 大政大臣称 号 ○親王 唐名 大王。竹園。梁園 天枝。帝葉。一品 二品。三品。四品
易林				◎	

官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位	官位
大貳	少貳	按察使 アセシ	造酒正 サケノカミ	箠馬頭 ノカミ		檢非違使 ケンビイシ	鎮守府將軍 チンシュフノシヤウケン	明經博士 ミヤウキヤウノ	内匠頭 タクミノカミ	中務卿 ナカツカサノキヤウ	大小輔
都督大卿	都督少卿	都護	典酒令 チンシユレイ	典廩		廷尉	鎮東將軍	直講	中尚令	中書令	中書侍郎
都督大卿	都督少卿	都護		典廩 チンキウ		廷尉 テイイ	鎮東將軍 チントウ			中書令 シユレイ	中書侍郎
44 ⑤	44 ⑤	44 ⑥	44 ②	44 ⑦		45 ②	44 ⑦			42 ④	42 ④
598	599	601	589	605		610	607			546	547
都督大卿 トクタイケイ	軍監。都督少卿 クンケン トクセウケイ	都護 トコ	良醞。典酒令 リヤウウン チンシユレイ	典廩令 チンキウレイ		別當大理。 左佐廷尉 ベツタウダイリ サ、テイイ	將軍監使。鎮東 シヤウクンケンシ チンシヤウ	直講。大儒 チヨクコウ シユ	中尚令。少府監 チュウシヤウレイ ショウフカン	省。中書。 卿。侍郎 シヤウ チウシヨ キヤウ シラウ	
33 ①	33 ②	33 ③		33 ④		33 ⑥	33 ⑤	31 ⑥	31 ⑤	31 ②	
	少貳 唐名都督	都護 按察使 唐名都護 都護 按察ノ唐名		唐名 典廩 箠馬介之		廷尉 判官之唐名 尉。非臯陶唐名	檢非違使 唐名廷尉			中書 中務之唐名 中務 唐名中書	
○	○	○		○		○				○	

唐名 攷 (萩原)

官位	官位	官位	官位	官位		官位	部門
兵衛督 ミサキノカミ	諸陵頭 ミサキノカミ	圖書頭 ソンヨノカミ	大判官 タイハンシ	大判官 タイハンシ	參議 サンギ	大炊助 ヲホイノスケ	大宰師 ダサイノソツ
武衛將軍	廟陵少監	秘書監	判官	判官	八座	道官	都督尹
武衛將軍	廟陵少監 ヘウレウシヤウケン	秘書監 ヒシヨカン	判官也	判官也	諫議大夫。八座。相公。 即チ宰相也		都督尹 トトクイン
44 ⑦	43 ④	42 ⑥	43 ⑥	42 ③	42 ③		44 ⑤
604	571	553	578	542	542		597
武衛將軍 フエイ	廟陵監 ヘウレウシヤウケン	秘書監 ヒシヨカン	判官 大判事 大理。正。	判官 大判事 大理。正。	參議大夫。相公。 八座。諫議大夫。 此官八人在	道官令 ダウクワンレイ	都督君 トトクイン
33 ④	32 ②	31 ③	32 ④	30 ⑦	30 ⑦		33 ②
兵衛 唐名武衛	左兵衛 唐名武衛	頭之唐名 廟陵少監 諸陵	圖書助 唐名秘書			大炊助 唐名大倉 令。主爨。道官	大宰師 唐名都督尹 唐名 都督尹 大宰帥之
●		●	○				○
							易林

唐名攷(萩原)

官位	治部卿 チブ	造酒正 サウシユノカミ	官位	造酒正 サケノカミ	官位	明法博士 ミヤウハウン	官位	式部卿 シキブ	官位	辯 ベン ヲ、トモヒト	官位	隼人正 ハヤトノカミ	官位	兵部卿 ヒヤウブ	官位	兵庫頭 ヒヤウコノ
	礼部尚書	良醞		良醞令		律学士		吏部尚書		蘭臺		布護將軍		兵部尚書		武庫將軍
	礼部尚書 レイホウ			良醞令 ラウウン		律学士 リツ		吏部尚書 リホウ		尚書ニ辯ヲ作辨ニ誤也		布護將軍 ホコ		兵部尚書也 ハイホウ		武庫將軍 フコ
43 ③			44 ②		43 ③		43 ①		42 ④	43 ⑥		43 ⑤		44 ⑦		
568			589		566		562		545	576		575		606		
卿、省、 尚書、 礼部。	良醞。 典酒令			律學士	卿、 侍郎	省、 吏部。	尚書。 蘭臺	布護南 殷	省、 兵部。 卿、 尚書		武庫將軍					
31 ⑦				31 ⑦		31 ⑥		31 ①	32 ②		32 ③		33 ⑤			
治部 唐名礼部	司酒 造酒正 良醞。			律學轉士 明法博 士之唐(名)	式部卿 唐名李部	中弁 唐名蘭臺	小弁 唐名蘭臺	布護 隼人之唐名	兵部 兵部之唐名	兵庫 唐名武庫	武庫 兵庫之唐名					
●			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

部門	当該語	対象語	注	文	項数	番号	春良本注文	春良項	運歩色葉集	易林
官位	天文博士	靈郎臺					靈郎臺。司天	31 ⑤	天文博士 唐名司天。 靈臺・靈臺	
官位	將監	靈臺 祿事參軍					祿事、參軍右。 親衛、校尉右	33 ③	天文博士之唐名	

*元龜二年本『運歩色葉集』テ部に「協律郎 雅樂之唐名」として収載。

『下学集』二本の校合については、先稿「異名について」のなかで指摘しているので、ここでは触れないでおく。春良本『下学集』は、原本『下学集』をただ増語する立場にはない。原収載語を削除し、それに替わる同等内容を語を再び収載するという改定増語の意識を持つことを確認しておきたい。ここ「唐名」の語をもってみれば、次の語が削除対象の語となる。

- 1 「親王」▽「竹園」……………「竹園」を脱落し、「龍樓」「天枝」「帝葉」を収載する。
- 2 「大少輔」▽「中書侍郎」……………脱落語。
- 3 「参議」▽「諫議大夫」……………見出し語を「宰相」に替え、語注文に「参議」をも含め、他の唐名と類聚にして収載。
- 4 「大判官」▽「判官」……………見出し語「大判事」に替え、語注文に「大理正。判官」を収載する。「大理正」は『運歩色葉集』の「理正」に通じる。「大判事」の見出し語で『職原鈔』は「司直許事」、『日本小文典』は「判官卿」と記載する。

5 「雅樂頭」▽「協律郎」……………「協律郎」を削除し、『職原鈔』の先頭にある「大樂令」を収載する。

ロドリゲス『日本小文典』は、「協律郎」を収載。

6 「宮内卿」▽「司農尚書」……………「(宮内)省」▽「司農」(「宮内)卿」▽「少府卿」と替えて収載する。『職原鈔』において「卿」は「工部尚書」であり、『日本小文典』は「司農尚書」で元和本と同じ。「少府卿」は未詳の唐名。

7 「大炊」▽「大倉令。主爨」……………「大倉令。主爨」を削除し、「道官令」を収載。『運歩色葉集』に「道官」が見える。

『職原鈔』『日本小文典』は「大倉令」のみ記載。

8 「中務卿」▽「中書令」……………省と卿とに分け省を「中書」、卿を「侍郎」と記述する。『職原鈔』は「中書。鳳閣」『日本小文典』は「中書令」で元和本と同じ。卿は『職原鈔』は未載。

9 「主水正」▽「膳部郎中」……………「膳部中郎」を「膳部」とし、この前に「上林蔵氷」を増補する。『職原鈔』は「上林」。易林本『節用集』に「上林蔵氷」と合致する。『日本小文典』は「膳部中郎」で元和本と同じ。

10 「造酒正」▽「良醞」……………「良醞」の語の後に「典酒令」を増補する。「典酒令」は未詳の唐名。

11 「彈正尹」▽「御史大夫」……………「御史大夫」の前に「少弼。霜臺」を増補する。増補語は『運歩』に見える。『職原鈔』は尹は「御史大夫」と同じ。臺に「御史臺。憲臺。霜臺」を記載する。「少弼」は未詳。

12 「内匠頭」▽「少府監」……………「少府監」の前に「中尚令」を増補する。『職原鈔』は「少府監」、『日本小文典』は

「少府」で、増補語「中尚令」は未詳。

この十二語を見るうえで、1は脱落か削除かと判定するといえ、脱落と見るしかない。同じく2も脱落語とみる。と8は明らかに春良本の改訂作業であり、3・4・5・6・7は差し替えをしたものとなる。この差し替えの意識をどう分析するかについては今後とも考えて行くことにしたい。また別の「唐名」の語を増補したものと、9・10・11・12がある。

13 「衛門督」▽金吾將軍。……………『職原鈔』『日本小文典』同じ。『運歩』は「金吾」。

監門大將軍「監門大將軍」は『撮壤集』に見える。

14 「少貳」▽軍監。都督少卿……………『軍監』は未詳。『職原鈔』にあつては、百官の語である。「都督少卿」は

『職原鈔』と『日本小文典』と同じ。『運歩』は「都督」。

15 「算博士」▽算ノ学士……………『職原鈔』は「算学博士」。「算ノ学士」は未詳。『撮壤集』は「算儒」。

16 「書博士」▽千書儒……………『職原鈔』は「書儒」。「千書儒」は未詳。

17 「檢非違使(別當)▽別當)大理。……………『職原鈔』の別當は「大理卿」。佐は「正ノ佐爲_三廷尉_二之例_一邂逅也」とみえ、

(左佐) 廷尉「唐名の語とは記載は見えない。『日本小文典』は「廷尉」と同じ。『運歩』と

合致。易林本にも見える。

18 「明經博士」▽直講。大儒……………『職原鈔』未収載。『日本小文典』は「大儒」だけで同じ。「直講」は百官。

19 「天文博士」▽靈郎臺。司天……………『職原鈔』『日本小文典』は「司天」だけで同じ。『運歩』に「靈臺」。

20 「將監」▽祿事參軍右。親衛校尉右……………『百寮訓要抄』、『撮壤集』に「親衛校尉」が同じ。「將曹」に「親衛録事」

で未詳。

この13から20の八語が春良本の「官位唐名」の増補の語であり、まだ共通の資料を見いだせないでいる。教授を待つ。

『下学集』に未収載の「唐名」

部門	当該語	対象語	運歩色葉集	頁行数 <small>静嘉堂本</small>	易林本『節用集』	頁行数
	齋院	按實	齋院 唐名按實	三一⑤		
	右京大夫	右京兆	右京兆 右京大夫唐名	二〇五②		
	右少弁	右少丞	右少弁 唐名右少丞	二〇五①		
	右大弁	右大丞	右大弁 唐名右大丞	二〇五①		
	右中弁	右中丞	右中弁 唐名右中丞	二〇五①		
	右大將	右幕下	右大將 唐名右幕下。幕府親衛將軍	二〇四⑧		
	右大臣	右府	右府 右大臣之唐名	二〇三⑤		
		右丞	右大臣 唐名右府。右丞相。右相國。	二〇四⑧		
		右相府	右相府從二位			
中將	羽林	中將 唐名羽林	中將 唐名羽林	七五②		
		羽林 中將少將之唐名	羽林 中將少將之唐名	二〇二④		

唐名 攷(萩原)

部門	当該語	対象語	運歩色葉集	頁行数 <small>静嘉堂本</small>	易林本『節用集』	頁行数
	少将	羽林	少将 唐名羽林 羽林 中将少将之唐名	四三〇⑧ 二〇二④	少将 羽林次将 羽林 少将	一三三三② 一一六④
	随人 <small>ジン</small>	衛士	随人 唐名衛士	四三七②		
	左馬助	駕部	左馬助 唐名駕部 駕部 駕助之唐名	三一四① 一二四④		
	従一位	開府議	従一位 唐名開府議。曰二品下	三八一④		
官位	大政大臣	槐門 <small>クワイモン</small>	大政大臣 唐名大相国。府亞相。僕射。蓮府。槐門 槐門 太政大臣之唐名	一五六⑦ 二一九③	槐門 大臣	一二八⑥
	大臣					
	大外記 <small>ゲキ</small>	外史	大外記 唐名外史	一五四⑥		
	鎮守府將軍 <small>チンジュフンヤウグン</small>	監使	鎮守府將軍 唐名監使 監使 鎮守府將軍唐名	八四② 一二二②		
官位	大納言	九棘 <small>キウキョク</small>	九棘 大納言唐名		九棘 大納言唐名	一八五④
	正一位	九尉	正一位 唐名九尉	三八一④		
東宮 <small>クウ</small>	宮司		東宮 唐名宮司。詹事。大傅	六〇⑤		

唐名攷(萩原)

権弁 <small>ゴンノベン</small>	勘解由 <small>カゲユ</small>	従二位	木工頭 <small>モクコウノカミ</small>	進士 <small>シンジ</small>	公卿 <small>クウケイ</small>	内記 <small>ナイキ</small>	従三位	正三位	左近 <small>サソ</small>
権尚書	勾勘 <small>コウカン</small>	光祿	工部	貢士 <small>コウジ</small>	卿相 <small>ケイシャウ</small>	供奉 <small>コフブ</small>	銀青光祿夫	金紫光祿夫	近衛
権弁 <small>ゴンノベン</small>	勾勘 <small>コウカン</small>	光祿 <small>コウロク</small>	木工頭 <small>モクコウノカミ</small>	進士 <small>シンジ</small>	卿相 <small>ケイシャウ</small>	供奉 <small>コフブ</small>	従三位 <small>曰三三品一</small>	正三位 <small>品一</small>	左近 <small>サソ</small>
唐名權尚書。蘭臺 <small>ケンケン タイ</small>	勘解由之唐名 <small>カゲユノカミ</small>	大膳大夫之唐名	木工頭之唐名	唐名貢士	唐名卿相	唐名供奉	唐名銀青光祿夫大九尉。	唐名金紫光祿大夫。曰三	唐名近衛
二六九①	二六七③	二二六③	一九七②	二六九④	三五六③		三八一⑥	三八一⑤	三〇九④
	勾勘 <small>コウカン</small>		木工頭 <small>モクコウノカミ</small>		卿相 <small>ケイシャウ</small>	内記 <small>ナイキ</small>			
	勘解由 <small>カゲユ</small>		工部尚書		公卿	供奉 <small>コフブ</small>			
	一當 <small>イツタウ</small>								
	一五四①		一一四②		一四四②	一〇九④			

部門	当該語	対象語	運歩色葉集	頁行数 <small>静嘉堂本</small>	易林本『節用集』	頁行数
	采女 <small>ウネメ</small>	采令	采女 唐名采令	二〇三②		
	左衛門	左金吾	左衛門 唐名左金吾	三一一⑧		
	左京亮 <small>スゲ</small>	左京兆	左京亮 唐名左京兆	三一四③		
	左大臣 <small>サダイジン</small>	左府 左槐 左丞相	左大臣 (略) 唐名左府。左槐。左丞相 (略)	三一三⑦		
	左大将 <small>シヤウ</small>	左親衛將軍	左大将 唐名左親衛將軍。左幕下 <small>ハツカ</small>	三一三⑧		
	左大弁 <small>ヘン</small>	左大丞	左大弁 唐名左大丞	三一三⑧		
	左馬頭 <small>マノカミ</small>	左典厩 <small>テシキウ</small>	左馬頭 唐名左典厩	三一四①		
	左大将 <small>シヤウ</small>	左幕下 <small>ハツ</small>	左大将 唐名左親衛將軍。左幕下 <small>ハツカ</small>	三一三⑧		
宰相	參議	參議	宰相 唐名相公。參議。諫議 參議 宰相之唐名	三一〇② 三〇四⑦		
中宮 <small>クウ</small>	二千石	二千石	中宮 長秋二千石 <small>チャウセウシ センセキ</small>	七四⑧		
守護 <small>ゴ</small>	使君	使君	守護之唐名 唐名大守。刺史。使君	三五七⑥ 三七五⑤		

部門	当該語	対象語	運歩色葉集	頁行数 <small>辭書本</small>	易林本『節用集』	頁行数
官位	諸陵頭	舍部	諸陵頭 唐名廟陵。少監 舍部 <small>ホウ</small> 同(諸陵頭之唐名)	三五①⑥ 三七五③		
官位	主殿頭	舍部	主殿頭 唐名尚舍。舍部 <small>トノモノカミ</small>	六七⑧		
官位	玄番頭	主客	玄番頭 唐名鴻臚卿又主客 主客 玄蕃頭之唐名	二四九⑦ 三六〇⑥		
	目省	主簿	主簿 目省之唐名	三六〇⑥		
官位	明經博士	助教	明經博士 唐名国奉。助教 助教 明經博士之唐名	三四六④ 三六七⑥		
官位	大政大臣	相国	大政大臣 唐名大相国。(相)府。亞 相。僕射。蓮府。槐門 相國 大政大臣之唐名	一五六⑦ 三六六③	大政大臣 唐名相国	八九③
官位	大政大臣	相府	大政大臣 唐名大相国。(相)府。亞 相。僕射。蓮府。槐門 相府 同(大政大臣之唐名)	一五六⑦ 三六六③	左大臣 相府。右	一七六④

唐名攷(萩原)

官位	官位			官位														
関白 <small>クワンバク</small>	東宮 <small>トウグウ</small>	正四位		后宮	主殿頭 <small>トノモノカミ</small>	諸陵頭	左大史	内膳正 <small>ナイセンカミ</small>	縫殿	縫殿頭 <small>ヌイトノカミ</small>								
聖宰 <small>セイサイ</small>	青圀 <small>セイ井</small>	正儀大夫		椒庭 <small>セウテイ</small>	尚舍	尚舍	尚書都事	尚食		尚衣								
	東宮 唐名大傅。太子。詹事 青圀 東宮之唐名	大夫 正四位上 唐名正儀大夫。下 通議		大政大臣 唐名大相国。(相)府。 亞相。僕射。蓮府。槐門 丞相 大政大臣之唐名	主殿頭 唐名尚舍。舍部 <small>シヤホウ</small>	尚舍 諸陵頭之唐名	左大史 唐名尚書都事	尚食 内膳正之唐名	尚衣 縫殿之唐名	縫殿頭 唐名掖庭監。尚衣。造縫								
	四三二③ 六〇⑤	三八一⑥		一五六⑦ 四三二③	六七⑧	三七五③	三一四③	一八七① 三七五③	三七五④	九一⑦								
聖宰 <small>セイサイ</small> 関白 <small>クワンバク</small>	青圀 <small>セイ井</small> 東宮 <small>トウグウ</small>			椒庭 <small>セウテイ</small> 后宮														
一一三三三③	一一三三三③			一一三三三③														

部門	当該語	対象語	運歩色葉集	頁行数 <small>静嘉堂本</small>	易林本『節用集』	頁行数
官位	掃政 <small>セツシヤウ</small>	攝祿 <small>セツロク</small>	掃部 <small>カモン</small> 唐名洒掃 <small>セイサウ</small>	一四四①	掃 掃部頭 <small>カモンノカミ</small> 助允唐名洒	七一⑥
東宮	詹事	東宮 <small>クウ</small> 唐名宮司 <small>キウシ</small> 詹事 <small>センシ</small> 大傅 <small>タイフ</small>	東宮 <small>クウ</small> 唐名宮司 <small>キウシ</small> 詹事 <small>センシ</small> 東宮之唐名	六〇⑤ 四三〇⑥	攝政 <small>セツシヤウ</small> 別祿	一三三②
内舍人	千牛備身	内舍人 <small>ナイシヤジン</small> 唐名千牛備身	内舍人 <small>ナイシヤジン</small> 唐名千牛備身	一八六⑦		
大膳	膳部	大膳 <small>ゼン</small> 唐名光祿。膳部	大膳 <small>ゼン</small> 唐名光祿。膳部	一四四②		
内匠頭 <small>ナイシヤウノカミ</small>	霜別	内匠頭 <small>ナイシヤウノカミ</small> 唐名中匠。臺別。霜別	内匠頭 <small>ナイシヤウノカミ</small> 唐名中匠。臺別。霜別	一八六⑦		
内匠	霜別	霜別 <small>ベツ</small> 内匠之以ノ唐名	霜別 <small>ベツ</small> 内匠之以ノ唐名	三〇八④		
大藏卿	倉部	大藏卿 唐名倉部。大府	大藏卿 唐名倉部。大府	九九⑧		
大藏	倉部	倉部 <small>サウホウ</small> 大藏之唐名	倉部 <small>サウホウ</small> 大藏之唐名	三〇八③		
内蔵頭	倉部郎	内蔵頭 <small>クワンノカミ</small> 倉部郎。少	内蔵頭 <small>クワンノカミ</small> 倉部郎。少		府監	一二八⑤
内蔵人	倉部少府	内蔵人 唐名倉部少府	内蔵人 唐名倉部少府	一八六⑦		

				官位							官位
		將軍	諸國守護	春宮	東宮大夫	親王	典藥	酒殿	縫殿	縫殿頭	縫殿頭
	大進	大樹	大守		太子少尹	大王	大醫	造部	造縫	造縫	造縫
	大進 唐名	將軍 唐名大樹。幕府柳宮	國守 唐名大守。刺史 守護 唐名大守。刺史。使君	太子少尹 春宮之唐名	東宮大夫 唐名太子少尹	親王 唐名大王。竹園。梁園。天枝。 帝葉。一品。二品。三品。四品	典藥 唐名大醫 大醫 典藥之唐名	酒殿 唐名造部	造部 酒殿之唐名	造縫 縫殿之唐名	縫殿頭 唐名掖庭監。尚衣。造縫
	一四四①	一五六⑦	二一七① 二一七① 三七五⑤	一四四② 一四四②	一五六⑧	三五六②	一四四⑦ 二八四②	三〇四③	三〇八③	三〇八②	九一⑦
			大守 諸國守護唐名								
			八九④								

部門	当該語	対象語	運歩色葉集	頁行数 <small>静嘉堂本</small>	易林本『節用集』	頁行数
	從四位	大中大夫	從四位 上唐名大中大夫。下同中大夫	三八一⑦		
	彈正	大弼	大弼 彈正之唐名 大弼 彈正尹。唐名霜臺。御史大史	一四四① 一五四⑥		
	東宮	大傳	東宮 唐名宮司。詹事。大傳	六〇⑤		
	大藏卿	大府	大府 春宮之唐名 大藏卿 唐名倉部。大府	一四四⑦ 九九⑧		
	帶刀	帶劍	帶刀 大藏之唐名 帶劍 帶刀之唐名	一四四⑥ 一五〇⑦ 一五〇⑦		
官位	内大臣	内府	内府 内大臣之唐名 内大臣 唐名内府。相府。相国。丞相。僕射。蓮府。槐門。(略)	一四九② 一八七①	内府 内大臣唐名 内大臣 内府	八九④ 一〇九④
	内記	内史	内記 唐名内史。柱下 内史 内記之唐名	一八三⑧ 一四九②	内記 供奉	一〇九④
	大内記	内史	大内記 唐名柱下。内史	一五四⑦		

唐名攷(萩原)

						官位			官位	
正五位	中記 ^キ	中記	大内記 ^{ナイキ}	從四位	内匠頭助允 ^{タクミノカミ}	中辨 ^{チュウベン}	正五位	主計允	玄番頭 ^{ゲンバンノカミ}	内匠頭 ^{ナイシャウノカミ}
朝議大夫	柱下	柱下	柱下	中大夫	中匠	中丞	中散大夫	度支	度支 度支允 ^{ゼウ}	臺別
大夫	中記 ^キ 唐名柱下	柱下 ^{ヂウカ} 中記之唐名	大内記 ^{ナイキ} 唐名内史。柱下	從四位 夫	中匠 ^{シヤウ} 内匠頭助允 ^{タクミノカミ}		大夫	度支 ^{タクシ} 主計允唐名		内匠頭 ^{ナイシャウノカミ} 臺別 ^{ベツ} 内匠之唐名
正五位 上唐名中散大夫。下同朝議	中記 ^キ 唐名柱下	柱下 ^{ヂウカ} 中記之唐名	大内記 ^{ナイキ} 唐名柱下。内史	從四位 上唐名中大夫。下同中大	中匠 ^{シヤウ} 内匠頭助允 ^{タクミノカミ}		正五位 上唐名中散大夫。下同朝議	度支 ^{タクシ} 主計允唐名		内匠頭 ^{ナイシャウノカミ} 唐名中匠。臺別。霜別
三八一⑦	七五③	八〇⑦	一五四⑦ 一八三⑧	三八一⑦	七四⑧		三八一⑦	一五〇⑥		一八六⑦ 一四六⑥
						左中辨 ^{チュウベン}		度支 ^{タクシ} 主計唐名	玄番頭 ^{ゲンバンノカミ} 度支度支允 ^{ゼウ}	
						中丞。 鸞臺 ^{ランタイ}				
						一七六⑤		八九⑤	一四四③	

官位	官位							部門
関白 <small>クワンバク</small>	関白。攝政	判官 <small>ハンクワン</small>	正四位	中宮 <small>クウ</small>	從五位	從五位	從六位	当該語
殿下	殿下 <small>テンガ</small>	廷尉	通議大夫	長秋	朝散大夫	朝請大夫	朝議郎	対象語
関白 <small>クワンバク</small>	唐名殿下。博陸 <small>ハクロク</small> 。執柄 <small>シツペイ</small>	判官 <small>ハンクワン</small> 唐名廷尉 <small>テイイ</small> (元龜本)	大夫 正四位上 唐名正儀大夫。下 通議	長秋 <small>セウ</small> 中宮之唐名 中宮 <small>クウ</small> 長秋二千石 <small>チヤウセウセンセキ</small>	石 從五位 上唐名朝請大夫。已上八人 曰殿上人正。下同朝散大夫謂之二千	石 從五位 上唐名朝請大夫。已上八人 曰殿上人正。下同朝散大夫謂之二千	從六位 上唐名朝議郎	運歩色葉集
二二三⑧		二二三①	三八一⑥	七七① 七四⑧	三八一⑧	三八一⑧	三八一⑧	頁 <small>ページ</small> 行數
○	殿下 <small>テンガ</small> 関白攝政							易林本『節用集』
	一六四②							頁行數

唐名攷(萩原)

				官位 大將軍 碎大將 <small>シヤウ</small>	官位 関白 <small>クワンパク</small>				官位 大炊 <small>オホイ</small>		官位 文章博士 <small>ブンシヤウノ</small>
碓馬允 <small>マノセウ</small>	左馬允 <small>マノセウ</small>	將軍	右大將			藏人	正二位	大炊助	大炊	左馬允 <small>マノセウ</small>	藤翰林 <small>トウカンリン</small>
馬都尉	馬都尉 <small>ハトイ</small>	幕府柳營	幕府親衛將軍	幕下 <small>バツカ</small>	博陸	内謁者	特進	道宮	道印	都尉 <small>トイ</small>	
馬都尉 <small>ハトイ</small>	左馬允 <small>マノセウ</small> 都尉 <small>トイ</small> 。馬都尉 <small>ハトイ</small>	將軍 唐名大樹。幕府柳營	右大將 唐名右幕下。幕府親衛將軍		博陸 <small>ハクリク</small> 関白 <small>クワンパク</small> 唐名殿下。博陸 <small>ハクリク</small> 。執柄 <small>シツヘイ</small>	藏人 <small>ト</small> 唐名侍中。内謁者	正二位 唐名特進。日三品 <small>ト</small>	宮 大炊ノ唐名	大炊助 <small>オホイノスケ</small> 唐名大倉令。主爨。道宮道	都尉 <small>トイ</small> 左馬允 <small>マノセウ</small> 都尉 <small>トイ</small> 。馬都尉 <small>ハトイ</small> 都尉 <small>トイ</small> 右馬允唐名	
三五①	三一四①	三六三⑦	二〇四⑧		二二一③ 二二二③ 二二九③	一一八① 一一七① 一一六④	三八一④	一四七⑧	一〇〇①	六一四③ 三一四①	
				幕下 <small>バツカ</small> 大將軍 左大將 幕下近衛	博陸 <small>ハクリク</small> 関白名				道印 <small>オウイン</small> 大炊唐名	藤翰林 <small>トウカンリン</small> 文章博士	
一四⑦				一七六④ 一四⑦	一四⑦				八九⑥	四〇⑤	

				官位				
目	式部		判事	權弁	權弁	左中辨	中丞	鸞臺
録事	吏部	李部	理正	蘭臺	鸞臺			
録事	吏部	李部	理正	權弁	唐名權	尚書	蘭臺	
目ノ唐名	同	式部之唐名	唐名理正	判事	唐名判事			
			判事之唐名	蘭臺				
				二六九①				
				二二三①				
				八五②				
				八七⑥				
				八七⑦				
				九⑦				
						左中辨	鸞臺	一七六⑤

元和本『下学集』は、延べ語数で八十三語の「唐名」でいうところの官職名が収載されている。これに対し、春良本『下学集』は、延べ語数九十三語と十語の増語傾向にあるに留まる。ところが、『運歩色葉集』になると、表出見出し語に「唐名」を置く認定意識から、語注文にあって、特に官位職名(百官)に相当する副次的な「唐名」を数多く収載する傾向にある。この「唐名」の語収載について考察するに、官位職名の箇所語注文に「唐名○○」と記載する形式と唐名を見出し語にして、「○○ノ唐名」や「○○之唐名」と記載する形式とがあり、この形式は易林本『節用集』にも見えるごく一般的な辞書収載の記述方法であったことが知れる。ここで注意したいのは、この両方を収載する語とそうでない語とがこの辞書には見受けられる点にある。このことはこの辞書における収載語数の量にも反映している。この一方しか見えない語は、官位職名を基本とし、「唐名」の語は収載されない傾向にある。例外として「右京兆」「司直」「主簿」「度支」「中匠」「李(吏)部」「録事」の七語の唐名に対する官位職名の見だし語の

収載がない。また、官位職名の語が収載されていても、該当する語に「唐名」表示を未記載にした「文臺（文章博士之唐名）」や該当する官位職名でない官位職名を収載した「光祿（從二位之唐名）」、該当する「唐名」の語をも別の語で収載した「東宮 唐名（青圍）」、「諸陵頭 唐名（舎部。尚舎）」、「大政大臣（唐名（丞相）」、「親王（唐名（法王）」、「典藥（唐名（藥醫）」があり、完璧には編纂処理されていないのである。

この複雑な処理をなしえない程の語種をあえて収載する『運歩色葉集』の編纂者にとって、見出し語に「唐名」を収載した強い決定づけとそれに該当する語の注文に「唐名」と表記したことは、これらが必要不可欠な語として収載を余儀なくされるエネルギーに他ならない。それは公家貴族や武家貴族に深い関わりを有する識者である僧侶たちの用いるための特殊な辞書だったのかとも推定できよう。または、公家貴族や武家貴族その人たちに関わる特殊な辞書だったのかもしれないということである。このことは、『運歩色葉集』が写本のみで伝えられてきたこととも深い関係にあるに相違ない。

「唐名」を認定する規範意識

ではなぜ、『節用集』やキリシタン辞書である『落葉集』や『日葡辞書』は見出し語に「唐名」の語を収載しないのだろうか。『節用集』では「異名」の語も然りである。

「唐名」と言えば、まだ中世日本にとって新種の官位職名に偏るものであり、ごく限られた上層社会（公家貴族・武家貴族）での言葉群の総称性の言葉でしかない。この上層社会の人間たちと直接・間接に交渉交流する者（たとえば、聖教僧侶や御用商人）と当事者とがその職名にある相手に失礼のないよう記憶口記述する意味からも必要とす

るのであり、一般社会に生きる者（下級武士や庶民）にとって「唐名」の全部を熟知する必然性は彼ら（編纂に携わった易林と彼をとりまく人々）にはないのである。せいぜい十数語の忘れずに知っておくべき必修用語だけを抜粋して収載すれば済むからである。さすれば、見出し語に収載するまでの「唐名」の言葉の広がり（3）の珍しい名、あだ名、別名、異名の意味）は編纂者易林の語認定意識のなかにはなかったことになる。この抜粋された「唐名」こそが一般大衆をして知っておくべき名称であったのではないか。そうした「唐名」の語が『節用集』に表出していると私は考える立場にある。

易林本『節用集』が刊行される慶長年間頃には、人の官位職について、注文中にわざわざ「唐名」と明記せずに「唐名」に相当する語そのものの自体をさりげなく収載する傾向になっている。そうしたなかで、易林本『節用集』には、

へ 「兵部 兵部 唐名」

と 「都督 小貳唐名」

ち 「治部 大輔。少輔。丞卿。唐名云礼部」「中書 中務之唐名」

か 「掃部頭 助允唐名洒掃」

た 「太政大臣 唐名相国」「大納言 唐名亞相」「太守 諸國守護唐名」「大膳 大夫 唐名光祿」

「内府 内大臣唐名」「彈正 唐名霜臺」「度支 主計唐名」「大府 大藏唐名」「道印 大炊唐名」

て 「典廩 左右馬頭唐名」

き 「九棘 大納言唐名」

などの十六語の官位職名に対しては、この「唐名」の語をしっかりと明記しているのである。この呼称名が必ずしも民

衆にとって「親しみやすい」ものでもない。書簡記述を目で見た時のただくたびれていない新鮮な文字表記からくる尊さであり、口にするのを聞く時の音の響きも実に「かっこいい」といったまさに新世代のことばなのである。このなかで「兵部（ひょうぶ）」を「へいほう」のように文字表記は同じでも読み方を替える「唐名」と、読み方はもちろん、文字表記まで全く異にする「唐名」とがあり、後者が俄然と多いことから新しい物言いを求めて使用しようとする隆盛期ならではの知識人たちの使用状況がここにかがえる。このなかでとりわけ、「た」の部収載の官位の語に集中して明記されていることにも付記したい。

そして、『下学集』に未収載の語であって、易林本『節用集』が独自に採録した「唐名」の語も「唐名」と注せずして、その名を収載した語が幾つか散見している。

- 【は】「判官代」ハングワンタイ 「司直」シチョク 「博陸」ハクリク 「閔白名」ミンパク 「幕下」マツカ 「大將軍」
 【と】「藤翰林」トウカンリン 「文章博士」

当該の官職名に収載異同がある語

- 「檢非違使」ケンビキセン と「判官」ハングワン。唐名は、「廷尉」テイイ

また、官位門に採録せずにこれを人倫門に収載する語もある。

- 【ち】「治部」ヂブ 大輔。少輔。丞卿。唐名云礼部」リブ 「中書」チュウシヨ 中務之唐名」

- 【ぬ】「縫殿」ヌ 掖庭頭助」

- 【を】「織衣正」オリモノカミ

- 【か】「掃部頭」カモンノカミ 助允唐名洒掃」カスエノカミ 「主計頭」ヌシケミ 助允」

ま と め

以上、室町時代の古辞書における「唐名」の語について、考察してみた。ひとつは、現代の国語辞書では、読み方そのものも不明瞭になりつつある「唐」の付く語を含めての規範意識の限界がこの近代語の萌芽期に潜んでいるのではないかと推察したからにすぎない。実際、和語読みする語と漢語読みする語の両方が表出し、それ以前の史料にみえる語における音読みか訓読みかの識別は実にむづかしい。そうしたなかで、さらに混種語読みも登場する。これらの語がきっちり読み方のうえで認識できた時代があったこと。これが混在して識別ができなくなること。このことを現代語の国語辞書は、語の流れをふまえて知らしめていないことに気づく。という私も江戸時代のこれらの語についての調査結果を示すことが紙面の都合上でできないことで不十分さは拭い切れない。

次に古辞書の「唐名」収載状況であるが、『下学集』、『運歩色葉集』、『易林本』『節用集』に加え、ロドリゲス『日本小文典』まで含め、考察してみた。このなかで、『下学集』の収載は標準的な質数量であり、ひとつの基準値を示しているのではなからうか。分類門では神祇・官位・人倫に及び、官位門が主に収載の箇所である。「唐名」をあだ名、異名のごとくは見えていないことも知れる。『節用集』も使用目的からくる異なり語は見えるが、数量は多くない。むしろ、官位をあらわす「唐名」については、『運歩色葉集』に特異性があるのではないか。この辞書の見出し語収載から始まって、収載語数とその収載内容についてはさらにつきつめて考察の必要があるのではないかと考えるのである。

補遺1

ロドリゲス『日本小文典』における唐名 (Carana)

百官 (Fiacquan)

唐名 (Carana)

『職原鈔』唐名

官位 摂政 (Xexxō)

博陸 (Facurocu)

負辰 (Fuy)

関白 (Quambacu)

執柄 (Xippej)

補佐 (Fusa)

太政大臣 (Daijō daijin)

相国 (Xōccocu)

大相国。大尉。

左大臣 (Sadaijin)

左丞相 (Saxōjō)

大傅。左丞相。左僕射。

右大臣 (Vdaijin)

右丞相 (Vxōjō)

大保。右丞相。右僕射。

内大臣 (Naidaijin)

内府 (DaiFu)

大納言 (Dainagon)

亞相 (Axō)

亞相。

中納言 (Chūnagon)

黄門 (Quōmn)

納言。龍作。黄門。

少納言 (Xōnagon)

給事 (Kitjin)

給事中。

宰相 (Saixō)

相公 (Xōcō)

中将 (Chūjō)	羽林 (Vrin)	羽林中郎將。親衛中郎將。虎賁中郎將。
少將 (Xōxō)	羽林 (Vrin)	羽林次將。親衛郎將。
大外記 (Daigheki)	外史 (Guaixi)	外史。
小外記 (Xōgheki)	外史 (Guaixi)	外史。
弁 (Ben)	尚書 (Xōjō)	尚書。
左大弁 (Sadaiben)	左大丞 (Sadajō)	左大丞。
右大弁 (Vdaiben)	右大丞 (Vdajō)	右大丞。
左中弁 (Sachuben)	左中丞 (Sachujō)	左中丞。
右中弁 (Vchuben)	右中丞 (Vchujō)	右中丞。
左少弁 (Saxōben)	左少丞 (Saxōjō)	左司郎。
右少弁 (Vxōben)	右少丞 (Vxōjō)	右司郎。
侍從 (Tijō)	拾遺 (Xōy)	拾遺補闕。
大内記 (Dainaiiki)	大内史 (Dainaiixi)	柱下起居郎。
少内記 (Xōnaiiki)	大内史 (Dainaiixi)	著作郎。
大監物 (Daikemmot)	城門郎 (Iōmonrō)	城門郎。
少監物 (Xōkemmot)	城門郎 (Iōmonrō)	殿中侍御史。
式部 (Xikibu)	吏部 (Rifō)	吏部。

治部 (Gibu)	礼部 (Reifô)	礼部。
民部 (Minbu)	戸部 (Cofo)	戸部。
兵部 (Fiôbu)	兵部尚書 (FeifôXôjio)	兵部尚書。
刑部 (Ghiôbu)	刑部尚書 (KeifoXôjio)	刑部尚書。
中務 (Nacadzcasa)	中書令 (Chûxorei)	中書大卿。中書監。
大蔵 (Vôcura)	大府卿 (Daifukei)	大府卿。
宮内 (Cunai)	司農尚書 (XinoXôjio)	工部尚書。
大舍人 (Vôdoneri)	宮園令 (Kinÿrei)	宮園令。
図書 (Dzuxo)	秘書監 (Fixocan)	秘書監。
内蔵 (Cura)	倉部郎中 (Sôfôrôchan)	倉部郎。少府監。
縫殿 (Nui)	掖庭令 (Yekiteirei)	尚衣奉御。
内匠 (Tacumi)	少府 (Xôbu)	少府監。
雅樂 (Vta)	協律郎 (Keôritrô)	大樂令。協律郎。
文蕃 (Ghemba)	鴻臚卿 (Côrokei)	鴻臚卿。
諸陵 (Misazaki)	廟陵少監 (Beôreôxôcan)	廟陵令。
主計 (Cazoye)	度支郎 (Tacuxirô)	金部郎中。度支郎中。
主税 (Chicara)	倉部郎 (Sôfôrô)	倉部郎中。

木工 (Mucu)	工部尚書 (Cofoxōjō)	工部尚書。將作大匠。木作尹。
大炊 (Vouoi)	大倉令 (Faisōrei)	大倉令。
主殿 (Tonomo)	殿部 (Tembō)	尚舍奉御。
典藥 (Tenyacu)	大医令 (Tairyrei)	大医令。尚藥奉御。
掃部 (Cannon)	守宮令 (Xūkiūrei)	洒掃尹。
(Cannon)	洒掃署 (Xeisōxō)	洒掃署 (掃部寮)
西市 (Xeichi)	市令 (Xirei)	市令。
左衛門 (Sayemon)	金吾將軍 (Kingoxōgun)	金吾將軍。
右衛門 (Vyemon)	金吾將軍 (Kingoxōgun)	金吾將軍。
左兵衛 (Safiōye)	武衛 (Buyei)	武衛大將軍。
右兵衛 (Vfiōye)	武衛 (Buyei)	武衛大將軍。
左馬 (Sama)	典廐 (Tenkitō)	典廐令。駕部郎中。
右馬 (Vma)	典廐 (Tenkitō)	典廐令。駕部郎中。
兵庫 (Fiōgo)	武庫將軍 (Bucoxōgun)	武庫令。
采女 (Vneme)	女中 (Iochū)	采女令。
(Vneme)	采女署 (Saiōjō)	采女署 (采女司)
隼人正・(FayatonoCami/Suke)	布護將軍 (Fugoxōgun)	布護將軍。

囚獄正・(FitoyaCami/Suke) 斷獄司 (Dangocuxi) 斷獄令。

織部正・(VoribenoCami/Suke) 織染令 (Xocuxenrei) 織染令。

正親正・(VouokinoCami/Suke) 宗正卿 (Sôxeikei) 宗正卿。

造酒正・(SakenoCami/Suke) 良醞令 (Riôunrei) 良醞令。

主水正・(MondonoCami/Suke) 膳部郎中 (Lembôrôchû) 上林令。

中宮大夫・亮・大進・少進 (ChûgûnoDaibu/Suke/Daixin/Xôxin) 長秋監 (Chôxûcan) 長秋監。

大膳大夫・亮・大進・少進 (DajjennoDaibu/Suke/Daixin/Xôxin) 光祿卿 (Quôrocukei) 大官令。

修理大夫・亮・大進・少進 (XurinoDaibu/Suke/Daixin/Xôxin) 匠作 (Xôsacu) 匠作。

東宮大夫・亮・大進・少進 (TôgûnoDaibu/Suke/Daixin/Xôxin) 詹事端尹 (Yenjitanyn) 太子詹事。

端尹。

彈正 (DanjônnoYn/Daifit/Xôfit/Daichû/Xôchû) 御史 (Ghioxî) 御史臺。憲臺。

(DanjônnoYn/Daifit/Xôfit/Daichû/Xôchû) 霜臺 (Sôtai) 霜臺。

主馬判官・助・允 (XumenoCami/Fôguan/Suke/Iô) 厩牧 (Kiriboku) 厩牧令。

左近衛大將・中將・少將 (SaconyenoTaixô/Chûxô/Xôxô) 羽林將軍 (VrinXôgun) 羽林大將軍。

右近衛大將・中將・少將 (VconyenoTaixô/Chûxô/Xôxô) 羽林將軍 (VrinXôgun) 羽林大將軍。

左京大夫・亮・進 (SakionnoDaibu/Suke/Xin) 京兆 (Keichô) 京兆。馮翊。

右京大夫・亮・進 (VkionnoDaibu/Suke/Xin) 京兆 (Keichô) 京兆。馮翊。

勘解由長官・次官・判官 (CagheyunoChōquan/Xiquan/Fōgvan) 勾勘 (Cōcan)		勾勘 (*)。
左近藏人頭・別當 (SaconnoCurandonoCami/Bettō) 侍中 (Iichū)		侍中。
右近藏人頭・別當 (VconnoCurandonoCami/Bettō) 侍中 (Iichū)		侍中。
陰陽博士 (VonyōnoFacaxe)	大卜正 (Daibocuxei)	大卜正。
曆博士 (CoyominoFacaxe)	司曆正 (Xirekixei)	司曆。
天文博士 (TemmonnoFacaxe)	司天 (Xiten)	司天。
漏刻博士 (RōcucunoFacaxe)	挈壺正 (Keccoxei)	挈壺司。
(RōcucunoFacaxe)	司辰 (Xixin)	司辰。
文章博士 (BunxōnoFacaxe)	翰林学士 (Canringacuji)	翰林学士。翰林主人。
明經博士 (MiōkriōnoFacaxe)	大儒 (Daiju)	
明法博士 (MiōfōnoFacaxe)	律学士 (Ritcacuji)	律学博士。
音博士 (Vompacaxe)	音韻儒 (Inynju)	音儒。
東宮学士 (Tōgūgacuji)	太子賓客 (Taixifincacu)	太子賓客。
造酒・佑 (SakenoSuke/Iō)	良醞令 (Riōunrei)	良醞令。
主水・佑 (MondononoSuke/Iō)	膳部中郎 (Iembōchūrō)	上林令。
内膳正 (NaijennōCami)	尚食 (Xūjiki)	尚食奉御。
主膳正 (XujennōCami)	膳局 (Ienkioacu)	典膳郎。

大判事 (Taibanji)	判官卿 (Fōguankei)	司直許事。
内膳正 (NaijennōCami)	尚食 (Xōjiki)	尚食奉御。〈重複箇所〉
大宰帥 (DaisainōSot)	都督尹 (Totocuyin)	都督。
大貳 (Daini)	都督大卿 (Totocutaikei)	都督大卿。
少貳 (Xōni)	都督少卿 (Totocuxōkei)	都督少卿。
諸国守 (XococunoCami)	刺史 (Xixi)	刺史。使君。宰吏。牧宰。国宰。大守。
檢非違使 (Kempiyxi)	廷尉 (Teiy)	大理卿。
帶刀允 (Tachiinakinojō)	長公集 (Chōcōxū)	
左近衛將監 (SaconoyenoXōgghen)	親衛校尉 (XinyeCōy)	親衛校尉。
右近衛將監 (VconoyenoXōgghen)	親衛校尉 (XinyeCōy)	親衛校尉。
施藥院使 (Xeyacuynji)		司儀令。
受領 (Iuriō)		
鎮守府將軍 (ChinjufunoXogun)		
小舍人 (Codoneri)		

からあや【唐綾】○延喜四年九月廿四日、右少弁清貫、寛蓮法師をめして、囲碁をうたせられけり。唐綾四段、懸物〔かけもの〕にはいだされけり。寛蓮勝て給けり。聖代にも、か様の勝負、禁なかりけるにそ。△古今著聞集・博奕第十八1-418▽

からうす【唐臼】○ごほくと、鳴る神よりも、おどろくしく踏みとゞろかす唐臼の音も、枕上とおぼゆ。△源氏物語・夕顔一三九⑮▽

からくさ【唐草】○かの末摘花の御料に、柳の織物、よしある唐草を乱織りたるも、いと、なまめきたれば、人知れず、ほゝゑまれ給ふ。△源氏物語・玉蔓三七二①▽

からモン【唐門】○承元四年正月の比、内裏大炊殿にて日給はてゝ、源仲朝已下、蔵人町へまかりけるに、大炊御門おもての唐門より、なへくとある衣冠の人まいりけり。△古今著聞集・草木第廿九662五〇三頁▽

からねこ【唐猫】○御几帳ども、しどけなくひきやりつゝ、人げちかく、世づきて見ゆるに、唐猫の、いと小さく、をあしげなるを、すこし大きな猫、おひつゞきて、にはかに、御簾のつまよりはしり出づるに、人々、おびえ騒ぎて、女房「そよく」と、みじろきさまよふけはひども、衣の音なひ、耳かしがましき心ちす。猫は、まだ、よく人にもなつかぬにや、綱、いと長くつきたりけるを、物にひきかけ、まつはれけるを、「逃げん」と、ひこじろふほどに、御簾のそば、いと、あらはに引きあげられたるを、とみにひき直す人もなし。△源氏物語・若菜上三〇七②▽

ける程に、件くだんのねこ、玉をおもしろくとりければ、法印愛してとらせけるに、秘蔵ヒサウのまもり刀をとりいで、玉にとらせけるに、件くだんの刀をくはへて、猫やがて逃にげはしりけるを、人々追おひてとらへんとしけれどもかなはず、行ゆくかたをしらずうせにけり。この猫、もし魔マの變化ヘンゲして、まもりをとりて後、はゞかる所なくをかして侍はべにや。おそろしき事也。△古今著聞集・變化第十七609四七三頁▽

からのたか【唐の鷹】○同おなじき二年冬の比石見の守宗季、唐の鷹をまうけたりける。はぎたかくて尾みじかくして、よのつねのにも似ざりけり。足の緒などもつきたりけるは、人の飼かひたりけるにこそ。人のあづけてかはせける程に、飼損かひじにければ、院よりめされけれども、まいらせざりけり。△古今著聞集・魚虫禽獸第三十685五一七頁▽

からびつ【唐櫃】○それより、そのやけさせ給たまひたる灰をとりて、唐櫃からひつに入いれてまつりて、今はおはします。△古今著聞集・神祇第一三〇一▽

からびつ【唐櫃】○能書のきこえある人々ぞかゝれたる、唐櫃からひつになん入いれられたりける。云々。そのほか雜絵二十余卷あたらしくかき出いだして、おなじくから櫃二合いれに入いれられたりけり。あはせて三合也。△古今著聞集・画図第十六201

404▽

唐書○仁平の比ころ、宋朝の商客劉文冲、東坡先生指掌図二帖・五代記十帖・唐書九帖、名籍をそへて宇治の左府にたてまつりけり。△古今著聞集・文学第五181124▽

唐人○或所に仏事しけるに、唐人二人きたりて聴聞チヤウモンしけるに、磬ケイに八葉の蓮はちすを中にて、孔雀の左右たちに立たるを文モンに鑄いつたりけるをみて、一人の唐人、「捨すテレ身ヲ惜ムレ花ヲ思」といひけるを、今一人きゝてうちうなづきて、「打テドモ不ルレ立タ有リレ鳥」といゝけり。きく人その心をしらず。或人のどかにあむじつらねければ、連歌に侍りけり。

身をすてゝ花を惜とや思らんうてどもたゝぬ鳥もありけり。

かくおもひえてり。わりなくぞ思つらねける。

△古今著聞集・和歌第六十一―152▽

からエ【唐絵】○又和漢抄は、御屏風には、中面水をかき、上に唐絵をかき、下にやまと絵をかきたりけり。唐絵の寝殿二棟の障子より、つねの唐絵は無念也とて、平等院の宝蔵の四季の御屏風を二条の前の関白殿、長者にてをはしましけるに被申て、取出してうつされにけり。人々の姿も、みな昔絵にてぞ侍なる。いと見所あり。△古今著聞集・蹴鞠第十七三―406▽

唐の付かない語彙

シシ【獅子】○常則が書たる師子形をみては、犬ほへにらみて、おどろきけるとなん。△古今著聞集・画図第十六七―390▽

ねこ【猫】○保延の比、宰相の中將なりける人の乳母、猫をかひけり。其たかさ一尺、力のつよくて綱をきりければ、つなぐこともなくて、はなち飼けり。十歳にあまりける時、夜に入てみければ、せなかに光あり。彼乳母つねに此猫に向て、「汝しなん時われにみゆべからず」とをしへければ、いかなるゆゑにか、おぼつかなき事なり、十七に成ける年、行方しらずうせにけり。△古今著聞集・魚虫禽獸第三十686五―七頁▽

ねこ【猫】○或貴所にしろねといふねをかはせ給ける。その猫、鼠・すゞめなどをとりけれども、あへてくはざりけり。人のまへにてはなちける、不思議なる猫也。△古今著聞集・魚虫禽獸第三十687五―七頁▽
屏風は、実範つたへたりけるを、成章に沽却しにけるとぞ。△古今著聞集・画図第十六九―392▽

唐 名 攷 (萩原)

七八

最後にこの稿を起こすのにあたって、文中に使用させていただいた多くの文献資料の作成者に心から感謝する。とりわけ、また、電子メールにより、ご意見等を頂戴した山田健三氏には、この紙面を以て感謝申し上げます。

(平成八年十一月二十八日付)